

IBM Maximo for Service Providers
バージョン7 リリース6

インストール・ガイド

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、11 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Maximo for Service Providers バージョン 7 リリース 6 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Maximo for Service Providers
Version 7 Release 6
Installation Guide
December 2014

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2008, 2014.

目次

第 1 章 Maximo for Service Providers

のデプロイの計画 1

Maximo for Service Providers のシステム要件 1

インストールの概要 1

構成の概要 2

第 2 章 Maximo for Service Providers

のインストール 5

EAR ファイルの自動ビルドと自動デプロイ 5

EAR ファイルの手動ビルドと手動デプロイ 6

EAR ファイルのビルド 6

EAR ファイルの WebSphere Application Server へのデプロイ 6

EAR ファイルを WebSphere Application Server にデプロイするためのコマンド構文 7

EAR ファイルの WebLogic Server へのデプロイ 7

PLUSQUOTECRONTASK クーロン・タスクの完了確認 8

特記事項 11

商標 12

第 1 章 Maximo for Service Providers のデプロイの計画

IBM® Maximo® for Service Providers 7.6.0 は、IBM Maximo Asset Management 7.6.0 と共にインストールする必要があります。ご使用の環境に IBM Maximo Asset Management Multitenancy 7.6.0 を組み込むこともできます。

Maximo for Service Providers のシステム要件

Maximo for Service Providers をインストールする前に、現在の環境がすべてのハードウェア要件とソフトウェア要件を満たしているかどうかを確認する必要があります。

Maximo for Service Providers をインストールするには、管理ユーザー権限が必要です。

インストール・プログラムでは、インストールを完了するために、Maximo Asset Management と共にインストールされるミドルウェア・サーバーにアクセスする必要があります。アプリケーション・サーバー、データベース・サーバー、ディレクトリー・サーバー用の管理ユーザー ID とパスワードも必要です。

エンタープライズ・システム

Maximo for Service Providers 7.6.0 は、Maximo Asset Management 7.6.0 がインストールされている管理ワークステーションにインストールします。

Maximo Asset Management Multitenancy

Maximo for Service Providers 7.6.0 は、Maximo Asset Management Multitenancy 7.6.0 と共にインストールすることができます。

Maximo for Service Providers が Maximo Asset Management Multitenancy 環境にインストールされた場合、Maximo for Service Providers は、システム・プロバイダー・テナントを除くすべてのテナントに対して有効になっています。

ハードウェア要件とソフトウェア要件の完全なリストは、Maximo Asset Management wiki のシステム要件に関するセクションで参照することができます。

インストールの概要

IBM Maximo for Service Providers 7.6.0 のインストールでは、製品のインストールとソフトウェアの構成を行います。

始める前に

IBM Maximo Asset Management 7.6 が、Maximo for Service Providers 7.6.0 のインストール先となるコンピューターにインストールされていることを確認します。

詳しくは、 Maximo Asset Management 7.6 IBM Knowledge Center 内のインストールに関するトピックを参照してください。

IBM Maximo Asset Management 7.6 へのアップグレードについては、 Maximo Upgrade Resources Web サイトを参照してください。

手順

1. ミドルウェア・サーバーおよび管理ワークステーションをバックアップします。
2. 以下のように、アプリケーション・サーバーを準備します。

アプリケーション・サーバー	タスク
WebSphere® Application Server	アプリケーション・サーバーが始動していることを確認してください。インストール・プログラムは、ユーザーが指定したログイン情報を使用してアプリケーション・サーバーに接続します。
WebLogic Server	アプリケーション・サーバー (MAXIMOSERVER) が停止していることを確認する。アプリケーション・サーバーが稼働している場合には、停止させて数分待機した後に、インストール・プログラムを開始する。アプリケーション・サーバーが停止していない場合は、インストール・プロセスが停止する。

3. Maximo for Service Providers をインストールします。
4. 構成プログラムを使用して、データベースを更新し、Maximo EAR ファイルをビルドおよびデプロイします。
5. Oracle WebLogic Server を使用する場合、または構成ステップを据え置いた場合は、Maximo データベースの更新と、Maximo エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルのビルドおよびデプロイを、手動で実行します。

構成の概要

Maximo Asset Management 構成プログラムを使用して、新しいデプロイメント環境を構成することができます。

インストール・プログラムが完了すると、構成プログラムが自動的に起動します。

構成プログラムを完了すると、Maximo for Service Providers アプリケーションが自動的に開始されます。

自動的に製品を構成するための構成プログラムを使用しない場合は、データベースの更新と、エンタープライズ・アーカイブ (EAR) ファイルのビルドおよびデプロイを、手動で実行する必要があります。

ほとんどの場合、構成プログラムをローカルまたはリモートで使用して、コンポーネントを構成することができます。Maximo for Service Providers のデプロイメント用に IBM WebSphere Application Server を準備する場合は、IBM WebSphere Application Server 上でローカルに構成プログラムを実行する必要があります。

制限事項: ご使用の環境に Oracle WebLogic Server が含まれている場合は、データベースの更新と、EAR ファイルのビルドおよびデプロイを、手動で実行する必要があります。WebLogic Server 上では、構成プログラムによる EAR ファイルのビルドとデプロイは実行されません。

インストールおよび構成手順が完了したら、ニーズに合うように Maximo for Service Providers をカスタマイズできます。

第 2 章 Maximo for Service Providers のインストール

Maximo for Service Providers は、Maximo Asset Management がインストールされているディレクトリーにインストールする必要があります。

手順

1. IBM パスポート・アドバンテージから Maximo for Service Providers 製品ソフトウェアをダウンロードし、インストール・イメージをローカル・ディレクトリーに解凍します。
2. launchpad ファイルをダブルクリックして、ランチパッドを開始します。使用しているコンピューターが 64 ビット・システムの場合は、launchpad64 ファイルを使用します。
3. 「IBM Maximo for Service Providers のインストール」 ペインで「インストール」をクリックします。
4. ご使用条件に同意し、「IBM Tivoli の自動スイート (IBM Tivoli's automation suite)」という既存のパッケージ・グループを使用するためのオプションを選択します。
5. インストール・プログラムを完了します。
6. 構成プログラムで「データベースの更新とアプリケーション EAR ファイルのビルドおよびデプロイ (Update Database and Build and Deploy Application EAR Files)」を選択します。
7. 構成プログラムを完了します。
8. インストールが完了したら、Maximo for Service Providers コンポーネントがインストールされたことを確認します。Maximo for Service Providers にログインし、「ヘルプ」メニューからシステム情報を表示します。

EAR ファイルの自動ビルドと自動デプロイ

インストール時に構成手順を据え置いた場合は、構成プログラムを使用して、Maximo データベースを更新し、EAR ファイルをビルドおよびデプロイすることができます。

始める前に

Maximo for Service Providers のインストールが完了していることを確認します。

手順

1. `install_home/ConfigTool` ディレクトリーで ConfigUI ファイルをダブルクリックして、構成プログラムを開始します。
2. ホーム画面で「データベースの更新とアプリケーション EAR ファイルのビルドおよびデプロイ (Update Database and Build and Deploy Application EAR Files)」を選択します。
3. 構成プログラムを完了します。

EAR ファイルの手動ビルドと手動デプロイ

構成プログラムを使用しない場合は、Maximo データベースの更新と、EAR ファイルのビルドおよびデプロイを、手動で実行する必要があります。デプロイメント環境内で Oracle WebLogic Server を使用している場合は、手動の手順も実行する必要があります。

EAR ファイルのビルド

製品をデプロイするには、Maximo データベースを更新し、Maximo EAR ファイルと Maximo ヘルプ・システム EAR ファイルのビルドとデプロイを行う必要があります。

手順

1. `install_home\%maximo%\tools\%maximo` ディレクトリーに移動して **updatedb** コマンドを実行することにより、Maximo データベースを更新します。
2. `install_home\%maximo%\deployment` ディレクトリーに移動して **buildmaximoear** コマンドを実行することにより、EAR ファイルをビルドします。
3. `install_home\%maximo%\deployment` ディレクトリーに移動して **buildmxiehsear** コマンドを実行することにより、ヘルプ・システム EAR ファイルをビルドします。
4. Maximo for Service Providers の製品イネーブラーを実行します。
`install_home\%maximo%\tools\%maximo%\internal` ディレクトリーに移動して以下のコマンドを実行します。

```
runscriptfile -cserviceprovider -fProductEnabler
```

EAR ファイルの WebSphere Application Server へのデプロイ

構成プログラムを使用しなかった場合は、Maximo EAR ファイルを手動で WebSphere Application Server にデプロイする必要があります。EAR ファイルをデプロイすると、アプリケーション・サーバーが始動します。

始める前に

- Maximo データベースを更新して EAR ファイルを作成してください。
- アプリケーション・サーバーが始動していることを確認してください。

このタスクについて

EAR ファイルは、Maximo Asset Management のインストール中に WebSphere Application Server にインストールされます。

コマンド構文のパラメーターは、現在のデプロイメント環境の値で置き換えてください。詳しくは、7 ページの『EAR ファイルを WebSphere Application Server にデプロイするためのコマンド構文』を参照してください。

手順

1. コマンド・プロンプトを開き、以下のコマンドを実行して、Maximo EAR ファイルをデプロイします。

```
websphere_home%jacl%solutions%DeployApplication.[bat|sh] WASAdminUserName
WASAdminPassword "MAXIMO" WASNodeName WASApplicationServerName
"install_home%maximo%deployment%default%maximo.ear" WASVirtualHost
WASWebServerName
```

2. コマンド・プロンプトを開き、以下のコマンドを実行して、Maximo ヘルプ・システム EAR ファイルをデプロイします。

```
websphere_home%jacl%solutions%DeployApplication.[bat|sh] WASAdminUserName
WASAdminPassword "MAXIMOIEHS" WASNodeName WASApplicationServerName
"websphere_home%maximo%deployment%default%maximoiehs.ear" WASVirtualHost
WASWebServerName
```

EAR ファイルを WebSphere Application Server にデプロイするためのコマンド構文

EAR ファイルを手動で WebSphere Application Server にデプロイする場合は、コマンド構文にパラメーターを使用します。

パラメーター

WASAdminUserName

デプロイメント特権を持つ WebSphere Application Server Network Deployment アカウント。

WASAdminPassword

WASAdminUserName パラメーターで指定されるユーザーのパスワード。

WASNodeName

WebSphere Application Server Network Deployment ノードの名前。

WASApplicationServerName

WebSphere Application Server Network Deployment アプリケーション・サーバーの名前。

WASVirtualHost

WebSphere Application Server Network Deployment 仮想ホストの名前。

WASWebServerName

WebSphere Application Server Network Deployment Web サーバーの名前。

EAR ファイルの WebLogic Server へのデプロイ

EAR ファイルをビルドした後に、WebLogic Server コンソールからそれらのファイルをデプロイする必要があります。EAR ファイルをデプロイすると、アプリケーション・サーバーが始動します。

始める前に

- Maximo データベースを更新して EAR ファイルを作成してください。
- Windows: MAXIMOSERVER サーバーが稼働していない場合は、コマンド・プロンプトから始動してください。
- UNIX: WebLogic Server デーモンが稼働していることを確認してください。

WebLogic Server コンソールを表示するには、Java™ 仮想マシンがインストールされている必要があります。

このタスクについて

Maximo EAR ファイルは、Maximo Asset Management のインストール中に WebLogic Server にインストールされます。

手順

1. 次の mydomain ディレクトリーに移動します。

オペレーティング・システム	ロケーション
Windows	コマンド・プロンプトで <code>weblogic_home\user_projects\domain\mydomain</code> ディレクトリーに移動します。
UNIX	コマンド・プロンプトで <code>weblogic_home/mxadmin/oracle/user_projects/domains/mydomain</code> ディレクトリーに移動します。

2. 以下のコマンドを実行して、WebLogic Server を始動します。

オペレーティング・システム	コマンド
Windows	<code>startWebLogic.cmd</code>
UNIX	<code>./startWebLogic.sh</code>

3. WebLogic Server のユーザー名とパスワードを指定します。
4. `http://hostname:7001/console` で WebLogic Server コンソールにログインします。
5. WebLogic Server コンソールで、指示に従って `maximo.ear` ファイルおよび `maximoiehs.ear` ファイルをデプロイします。

PLUSQUOTECRONTASK クーロン・タスクの完了確認

バージョン 7.1 以降の Maximo for Service Providers をバージョン 7.6.0 にアップグレードする場合、PLUSQUOTECRONTASK クーロン・タスクが完了するまで請求処理プロセスを開始しないでください。

このタスクについて

このクーロン・タスクは、Maximo データベース を拡張すると自動的に実行されます。

手順

1. Maximo for Service Providers にログインします。
2. 「アプリケーションへ移動」メニューで、「システムの構成」 > 「プラットフォームの構成」 > 「クーロン・タスクのセットアップ」を選択します。
3. 「クーロン・タスクのセットアップ」アプリケーションで、**PLUSQUOTECRONTASK** を選択します。
4. 「クーロン・タスクのインスタンス」テーブル・ウィンドウで **PLUSQUOTE** を参照します。 **PLUSQUOTE** インスタンスがリストされている場合、クーロン・タス

クの実行は完了していません。クーロン・タスクが完了するまで待ってから、請求処理プロセスを開始してください。 **PLUSQUOTE** インスタンスがリストされていない場合、クーロン・タスクは正常に完了しています。請求処理プロセスを開始することができます。

次のタスク

製品の  構成情報に記載されているタスクを実行します。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
2Z4A/101
11400 Burnet Road
Austin, TX 78758 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。



Printed in Japan